

## 令和5年度 第2学期終業式 式辞

令和5.12.20

2学期の終業式の日を迎えました。令和5年もあと10日余りとなりましたが、今年1年はどんな年でしたか。年末年始にかけて、今年から来年を迎えるタイミングを区切りとして、自分を見つめ直すいい機会として、考える時間を持ってほしいと思います。

はじめに称賛式で少し触れた話題になりますが、年が明けて、世界大会や全国大会に出場する選手の皆さんを紹介します。

まず、昨年も紹介したことがあります。ウィンタースポーツで「スケルトン」という競技があります。この競技に2年生の陸上競技部の篠原彩緒さんが、2024年冬季ユースオリンピックに日本代表として1月に出場することが決まりました。日の丸を背負った国際大会では、楽しむ余裕もないと思いますが、誰でもできる体験ではありません。大会を通じて人間的な成長につながるような時間になることを期待しています。

次に同じく1月に冬季競技のインターハイ「フィギュアスケート」に2年生の玉井美侑さんが出場します。これまで厳しい練習環境で大変だったと思いますが、やっとつかんだチャンスですので、伸び伸びと滑走し、いいパフォーマンスができるよう挑戦してきてください。

3人目は、先日の四国予選を見事に勝ち抜いて全国高等学校囲碁選抜大会への出場を決めた1年生の岡 柊佑（しゅうすけ）さんです。8冠を達成した藤井聡太プロ棋士でさえ、「まだまだ伸びしろは、改善の余地がある」とコメントしました。道は異なりますが、さらに囲碁の道を追及して3月の大会に臨んでください。

4番目は、全国選抜高校テニス大会に初出場を決めたテニス部男子です。先月の称賛式でも話しましたが、テニス部の創部以来、団体戦で初となる全国大会出場という新たな歴史を作りました。選抜大会は華のある大会です。3月に福岡で思い切ったプレーができるように、冬場のトレーニングに励んでください。

紹介した選手の皆さんには、県や日本の代表に加えて、松山北高校の生徒である自覚と誇りを自信に変えて頑張ってもらいたいと願っています。

さて、全校生徒の皆さんには、何事においても準備する大切さの話と、人として許されない自覚のない行動について話します。

まず、準備の話では、称賛式で触れた愛媛大学学園祭で開催された「えひめデザインウィーク」は11月11日（土曜日）の出来事です。地域創成をテーマに9名のパネリストでトークセッションが開催されるイベントでした。パネリストには、本校の2年生2名も参加し、いい意見交換ができましたが、初めに実行委員会の進行役

の学生から紹介されたプレゼン資料には、愛媛FC、FC今治、愛媛オレンジバイキングス、愛媛マンダリンパイレーツの紹介と、テーマである地域創生の話へ発展させる意図で提示された資料でした。すかさずメインゲストのパネラーである元陸上競技のハードル選手だった為末 大さんが、「今日って、愛媛FCとFC今治は、確か伊予決戦と言ってすごく大事な試合があるんでしょ」と話題を進行役の大学生に振りました。皆さんもあの頃を思い出してください。この日11月11日は、地元チーム同士の対戦がニンジニアスタジアムで開催される注目の一戦で、この一戦は愛媛FCにとって、勝てば3年ぶりのJ2復帰が決まる一戦でもありました。さらには、J3の当時リーグ2位の鹿児島への勝利によっては、愛媛FCのJ3優勝が決まる一戦でもある注目の一戦で、当日は1万人を超えるサポーターが入場した注目度の高い対戦カードでもありました。この情報のことを為末さんは今日の旬の話題として紹介したのですが、実行委員会の代表の学生は答えることができませんでした。為末さんはその点については、鋭く事前の準備不足を優しく指摘しましたが、その後は、為末さんが全体をフォローし、パネラーを上手に回して盛り上がるイベントに仕上げました。本校から参加した2名も自分の意見を自分の言葉で発表し、与えられた責任を果たすことができたことも皆さんにお伝えしておきます。

進行役の学生は、学園祭の大きなイベントを任せられ、信頼されている若者だと思いましたが、油断またはスキがあったのかもしれないと感じた瞬間でした。大役を担って余裕もなかったのだと思いますが、ほんの少しの余裕があれば旬の情報に反応できたのではないかと感じました。余裕をもつ大切さについて、改めて考えてほしいと思います。

次に、日頃から松山北高校の皆さんのいいところをできるだけ多く探して、称賛式などで紹介しています。ただし、皆さんの学校生活をいろいろな場面で観察して、改めてほしい行動についても話しておきたいと思います。

まず、登下校中などに、事故等の場面に遭遇し、困った人がいたら必ず何でもいいので、お手伝いができる思いやりのある行動ができることを心から願っています。

二つ目は、スマホなどの通信機器について、安易な操作で他人に迷惑をかけるようなことをしない。触れた瞬間、その後どうなるのか、想像できる思慮深い行動ができるようになってください。意識して少し間をおいて考えれば、難しいことはありません。

意識が変われば行動が変わるものです。皆さんの将来が変わります。以上のような出来事は、学校だけではなく、社会においても言い訳のできない誤った行動です。松山北高校で、このようなことが二度と起こらないように心から願っています。

終わりになりますが、令和6年1月9日、3学期の始業式でお互いにいい表情でまた会うことができることを祈って挨拶とします。